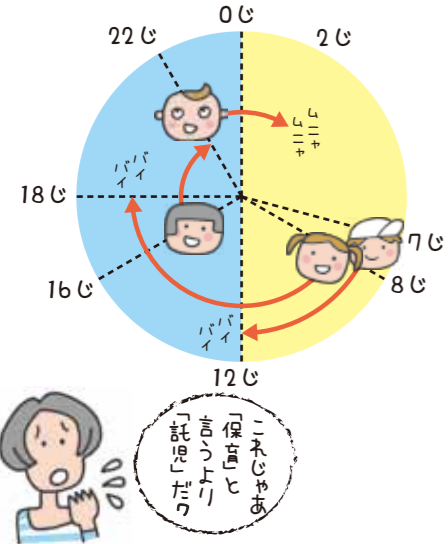


新システムで どうなる保育

1 保育が細切れの「託児」に

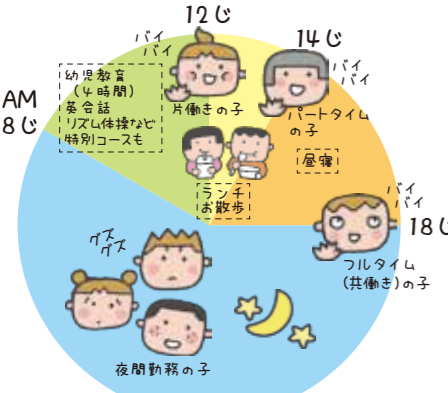
3歳未満児は
時間単位で預かるシステムに

親の就労時間を基本に利用時間帯が決まります。保育時間が一人ひとり異なり「朝だけ利用」、「午後だけ」、「夜だけ」がふえ、細切れ保育にならざるを得ません。



3歳以上児は 幼児教育だけいっしょ

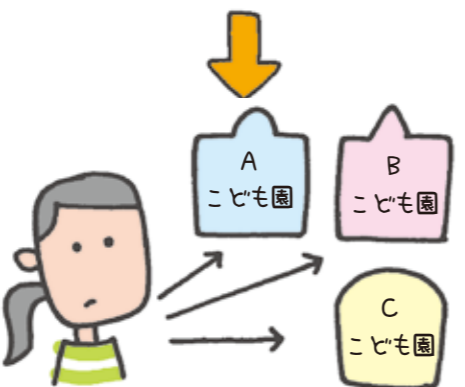
「幼児教育の時間」は、生活と教育が切り離され、小学校にうまく適応するための「予備校」になるおそれ。



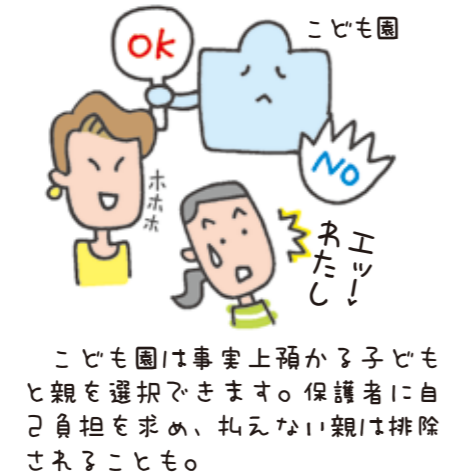
2 施設の利用は 自己責任



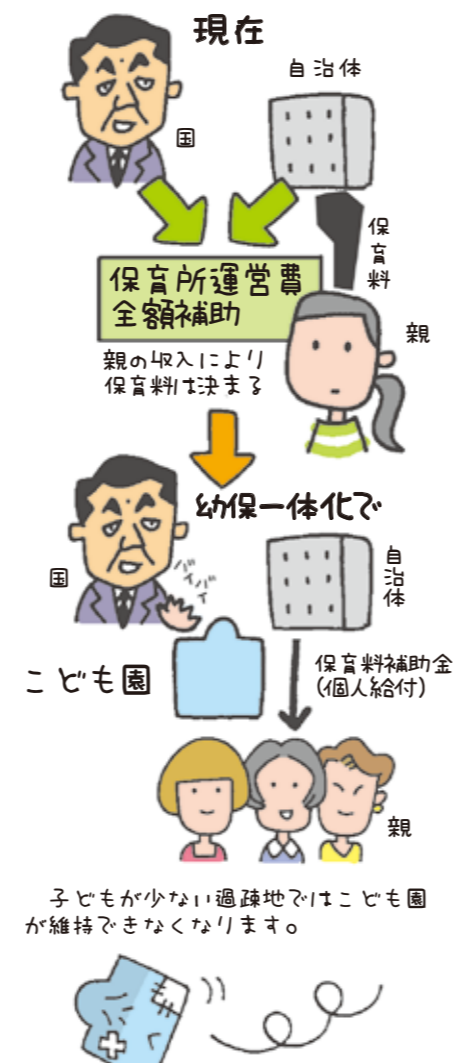
市町村が親の就労状況などをもとに「長時間保育」か「短時間保育」かを認定。こども園のリストを渡す。



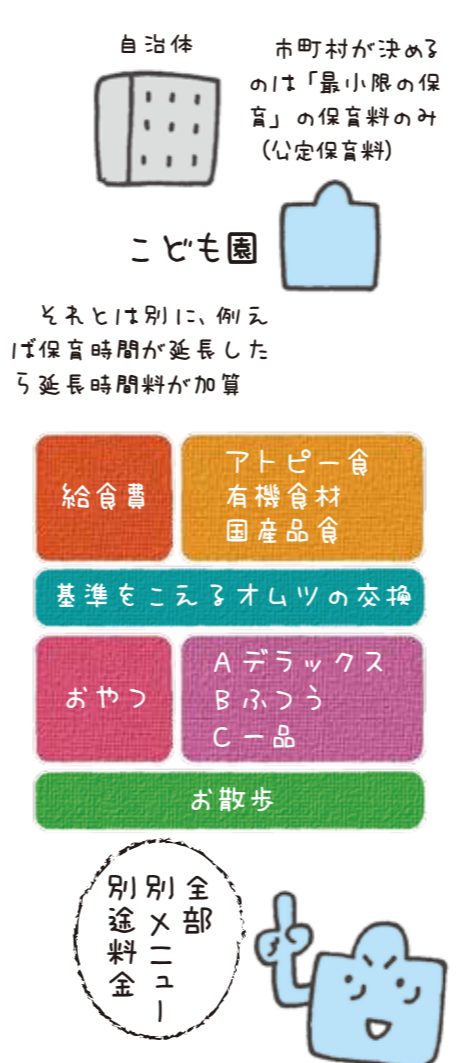
親がこども園のリストをもとにこども園に直接交渉し、預ける時間帯やサービス内容、支払う金額を決めます。



3 施設の補助金・ 財政保障は廃止



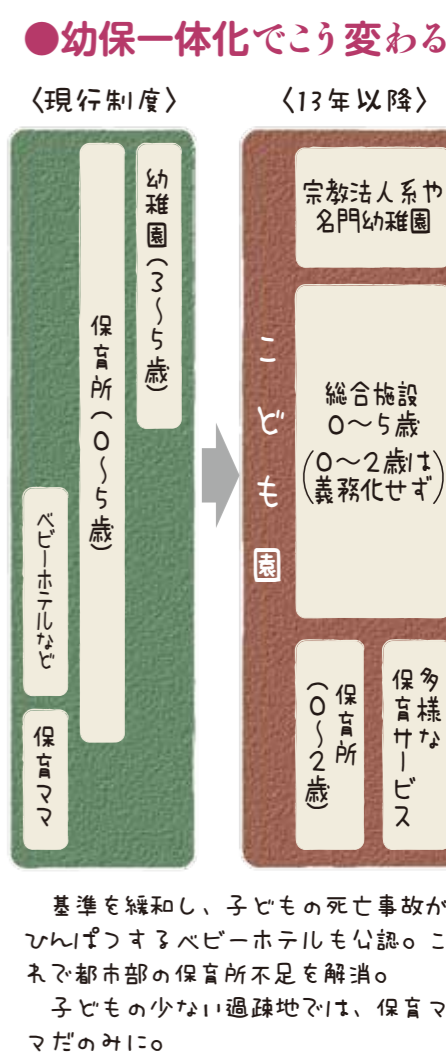
4 サービスは お金しだい



5 保育が サービス産業に



6 「多様な保育サービス」 で下がる保育の質



なぜ新システムに 変えるのでしょうか?

国際競争力を
つげよう

もともと安上がりの
労働者?

24時間
労働
シフト

そのために
24時間
預けられる
託児サービス

低賃金・不安定雇用・長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

これを突破口に
福祉はすべて契約制度で
国の責任と負担を
なくしちゃおう

じゃあ保育に
導入しましょう

低賃金・不安定雇用・長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

低賃金・不安定雇用・長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

低賃金・不安定雇用・長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

低賃金・不安定雇用・長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

新システムで解決しない、親の願い、 子の願い

保育所つくって待機児解消を、しかし
「幼稚園を使って待機児解消」は、幼稚園制度を存続し、3歳未満児受け入れを拒否できるため、待機児の解消になりません。施設整備の補助金もなくなるので新增設したくても財源が確保できません。

子育て支援の充実を、しかし
低賃金・不安定雇用、長時間労働で、子育てに余裕がなく、児童虐待をうむ環境が広がっています。しかし新システムは「自己責任」が基本。保育所を拠点にした子育てネットワークが壊されます。

公立保育所はどうなる
公立保育所も公立病院と同じく独立採算制をとり、保育料と幼保一体給付だけで運営。一般会計の特別な繰入れがなければ、保育条件の改善や、子育て支援は実施できません。

親の負担が増える、保育の質は落ちる、待機児解消にもならない、儲かる企業、
まかせっぱなし責任のない政府